

立命電友会

— 立命電友会会報 第63号 —

■ 目次

p2~p3	巻頭言	p13	立命電友会関東支部第2回総会
p4	退職のご挨拶	p14~p15	研究室ゼミ旅行(関西万博)報告
p5~p7	新任のご挨拶	p16~p17	就職状況
p8	卒業生からの寄稿	p18~p19	会計報告
p9	在学生からの寄稿	p19	学系だより、訃報
	2024年度表彰者一覧	p20	事務局だより
p10~p12	同窓会便り		

R
RITSUMEIKAN



RITSUMEI DENYŪKAI No. 63

「未来を信じ、未来に生きる」を胸に

OES (教育) 研究所 所長
大隅 紀和 (昭和 38 年卒)



60 数年前、当時は金閣寺近く衣笠キャンパスに理工学部二部電気工学科があった。私が卒業したのは 1963 (昭和 38) 年。梓みちよ「こんにちは赤ちゃん」、舟木一夫「高校三年生」などが流行。アジア初の東京オリンピックの開催、新幹線の開通は翌年のことである。

卒業の 3 月半ばの夜、広小路キャンパスで総長末川博先生からいただいた色紙「未来を信じ、未来に生きる」がある。それが先生を囲んだセピア色になった記念写真とともに、私の長い年月のよりどころになっている。

このたび事務局から原稿依頼をいただいた。京都の下町の小さな電機店に生まれ、市立洛陽高校の工業課程電気科の後、二部ながら立命館大学理工学部の電気工学科をやっとの思いで卒業した。やがて電気技術の専門家を目指すことから、科学教育者への道に進んだ。

そして 80 才半ばの現在も、地域の子どもや先生たち向けに電気の原点、ファラデーの電磁誘導現象をみずから開発した素朴な手作り巻線機で実験する取り組みをする次第である。ここに短く近況を記したい。

2020 年 3 月、80 才でコロナ禍のバンコクから帰国

卒業後の長い経過を経て、63 才で京都教育大学を定年退官。その後、スリランカのコロンボ 3 年、バンコク 2 年の滞在だった。70 代は例年「紅葉の頃に日本を出て、桜の頃にタイから帰国する」となっていた。

2020 (令和 2) 年も前年の年末にタイ滞在から、いったん帰国。そして、正月早々にバンコクに戻った。中国武漢市で発生した COVID-19 は耳にしていた。だが、その猛威は実感しないで、30 代から馴染みのバンコクの IPST 研究所 (*注、参照) に滞在を続けていた。

同研究所が、私のアドバイスを生かして開発した新型の手回し発電機 (ハンドダイナモ) は、

日本のものを越える特色があって、広く小中学校や高校の理科実験などに活用が見込める。それで連日、ハンドダイナモを使う実験を試み、多彩なビデオ映像の作成に取り組んだ。そして、その 2 月に現地で 80 才を迎えた。帰国便は、二度目の東京オリンピックも開催近い 3 月 11 日に予定していた。

帰国予定日に、タイで調達した機材を詰め込んだ 20kg のスーツケース 2 個とともに LCC 便のドンムアン空港に来て、全便が欠航の事態に面食らった。他の航空会社も軒並み欠航で、2 日間空港で足止め。そのあとスワンプーム空港に移動して、なんとか別の航空会社便のビジネスクラス一席を確保。台北の桃園空港で仮眠の一夜を過ごし、ようやくの帰国をした。

80 才で CV (英文履歴書) を求められる

国連科学教育文化機関 UNESCO の本部はパリにある。だがオーストラリアなどを含むアジア太平洋の広域地域をカバーする事務所 ROEAP は、バンコクにある。ここに米国から始まった新しい科学教育の潮流を受けて STEM 教育センター (Science, Technology, Engineering, Mathematics の教育) が開設されている。

私が長い交流を続けていた IPST 研究所の所長が退任し、同センターの初代所長に着任していた。その彼女は空港で足止めを食らっている

私のところに、みずから赴いてきて、直ちに最新の CV (英文履歴書) の提出を求め、同・STEM 教育センターのシニア・エキスパート就任を要請したのだった。

関西空港近く、泉州は泉佐野の住居に帰国した後もコロナ禍は続いた。そのため、現地での理科教師向けのワークショップを依頼されても、それまでのように現場に赴いて対面で実施することはできない。バンコクとのメールもミーティングもリモートになった。

タイ全土に散在する学校 34 校とリモートでのワークショップ

UNESCO の STEM 教育センターのエキスパートに 81 才で就任して、いきなりの仕事が入った。それは、日本の本州に似てタイの南北に細長くのびる国土に散在する 34 校の小中学校の 70 数名の先生たちに、私の住居に隣接する OES 研究所で開発した実験機材を使ったワークショップを実施することだった。事前打ち合わせと準備には、約一年を費やした。そして 2022 年、タイが夏期休暇となる 3 月に一か月間 30 数時間のプログラムを実施した。

私は自分の OES 研究所にいて、いくつもの機材を使った実験観察を演示する。その様子を知り合いがアシスタント役をしてビデオカメラを操作する。私は英語でバンコクの STEM 教育

センターにいるチュラロンコン大学で物理を担当する准教授に英語で話し、演示して見せる。

同・准教授が 34 の学校でモニターを見ている先生たちにタイ語で指示し説明する、というやり方をした。もちろん現地の先生たちからの反応や質問は、私のモニターで試聴し、即座に対応する。このワークショップで使った多彩な実験機材パッケージは、IPST が調達して事前に参加校に配布してくれた。つまりテレビの料理教室に似た英語・タイ語版である。しかし料理ではない、理科の実験である。

扱ったトピックスは、国際会議で発表するレベルを目指した

この取り組みは、80 代になった私の渾身の取り組みと自負するものだった。だから一過性のものにしたくなかった。そこで、日本国内でも知ってほしいと思って、このワークショップをベースに『未来のイノベータを育てる STEM 教育』を PHP エディターズ・グループで上梓した。この原稿の作成に、また一年を費やした。

その著書の帯に、出版社の編集担当が「身近な”電気”の実験で、誰も書かなかった STEM (科学・技術・工学・数学) 教育の本質を学ぶ」と記した。拙著の書名に立命館大学理工学部電気工学科の末席の卒業生として、ささやかな意地を込めている。この巻頭言の表題にも末川博

先生の言葉「未来に生きる」を使わせていただいていることを了としていただきたい。

注

IPST 研究所、IPST はタイ国教育省所管、科学技術教育振興研究所の英語名。所在地はバンコク中心部、エカマイ。筆者は 1978 年に初の滞在を契機に、2007 年から 2 年間の JICA 海外シニアボランティアを含めて、長く交流を続けている。

OES 研究所、筆者が個人的に運営する研究所、ホームページは <https://oes-labo.com/>

メールは、oesoes@maia.eonet.ne.jp

ご参考までに

立命館大の後、大阪市立大学二部文学部心理学専攻に学士入学。高校教員などを経て、京都市青少年科学センター、文部省・国立教育研究所、鳴門教育大学の後、京都教育大学。同・名誉教授、博士 (阪大、人間科学)、日本科学教育学会名誉会員、同学会・国際貢献章受賞、タイ王立アユタヤ地域総合大学 ARU・名誉博士、上海師範大学・数理情報学部・客員教授、近著『京に残した忘れ物』(文藝春秋、2025 年 2 月刊)がある。

電子情報工学科 講師 檜作 彰良

2025年3月末日をもちまして、7年間勤務した立命館大学を退職し、4月より横浜市立大学に着任いたしました。在職中は、多くの先生方ならびに職員の皆さまから温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

私は大学院博士後期課程修了後に民間企業で4年間の実務経験を積み、2018年に立命館大学理工学部電子情報工学科の助教として着任し、教育研究に携わりました。研究面では中山先生の研究室に所属しておりました。着任から3か月後には学生を引率してドイツ・ベルリンで開催された国際会議に参加し、引率される側からする側へと立場が変わったことの責任を実感した出来事でした。大学では自ら研究テーマを設定し推進できる環境にも大きなやりがいを感じ、意欲的な学生たちに恵まれて研究に取り組むことができました。

教育面では、着任3年目に初めて座学科目「データ構造とアルゴリズム」を担当しました。ちょうどコロナ禍の最中で全てオンライン講義となり、対面での対話が難しい中でどのような講義方法が良いのかを模索した日々は、今も鮮明に記憶しています。また、機械工学科の先生と学生とともに台湾・清華大学を訪問し、双方の研究発表と活発な議論を通じて、国際交流の重要性も実感しました。更に、大学院中間発表会や卒業研究発表会の運営に教員の皆さまと協働したことも、良い思い出です。

事務手続き等で戸惑う場面では、電子システム系事務室の皆さまに温かくご助言いただき、大いに支えていただきました。

在職中にお世話になった先生方、職員の皆さま

まに深く感謝申し上げます。新天地でも教育と研究に誠実に取り組みたいと思います。長い間、ありがとうございました。

電気電子工学科 助教 清水 悠生

このたび、3年間お世話になった立命館大学を退職し、立命館大学発スタートアップである株式会社 MotorAI の経営と研究開発に専念することとなりました。在職中は、先生方、職員の皆さま、そして電友会の皆さまからも多くのご支援をいただき、充実した教育研究活動を行うことができました。心より感謝申し上げます。

大学では、電動モータの設計に AI 技術を活用する研究に取り組んでまいりました。モータ設計は、磁場・熱・構造といった複数の物理現象が複雑に絡み合う分野です。従来の設計手法では、経験豊富なエンジニアの勘と長年の試行錯誤に頼る部分が大きく、新しい設計への挑戦には多大な時間とコストがかかっていました。私たちは、物理モデルに基づく理論的アプローチとデータ駆動型の機械学習を組み合わせることで、この課題に取り組んできました。

研究の中で特に重視したのは、「現場で使える技術」の開発です。いくら理論的に優れていても、実際の設計現場で活用できなければ意味がありません。限られた試作回数から最大限の知見を得る方法、製造ばらつきを考慮した設計の最適化、そして何より、AI が出した答えを設計者が理解し、納得できる形で提示する仕組みづくり。これらを一つひとつ丁寧に研究してきました。

MotorAI は、こうした大学での研究成果を実際の産業界で活用するために設立した会社です。

私たちが目指すのは、AI を単なる自動化ツールとしてではなく、設計者の創造性を引き出すパートナーとして活用することです。設計者の意図を理解し、新たな可能性を提案し、その根拠を分かりやすく説明する。まるで優秀な若手エンジニアが隣にいるような、そんな存在として AI を機能させたいと考えています。

具体的には、企業が長年蓄積してきた設計データや実験結果を活用し、それぞれの企業文化や設計思想に合わせた AI システムを構築していきます。導入時には現場の方々と密に連携し、既存の業務フローを大きく変えることなく、自然な形で AI を取り入れられるよう支援します。また、特定のソフトウェアやツールに依存しない、柔軟性の高いシステムを提供することで、長期的な技術資産の蓄積を可能にします。

私たちのビジョンは、「エンジニアの創造力を解き放ち、次世代のものづくりを実現する」ことです。AI はあくまでも道具であり、主役は人間です。設計者が問題を設定し、AI がその解決を支援し、最終的な判断は人間が行う。この役割分担を明確にすることで、効率性と創造性を両立させた、新しい設計開発のあり方を提案してまいります。

立命館大学発のスタートアップとして、今後も大学との連携を大切にまいります。共同研究を通じた新技術の開発はもちろん、学生への実践的な教育機会の提供、研究成果の社会実装など、産学連携の新しいモデルを構築していきたいと考えています。大学の持つ基礎研究力と、企業の持つ実装力を掛け合わせることで、日本のものづくりに新たな価値を生み出していく所存です。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



電子情報工学科 教授

三木 信彦

2025年4月1日に電子情報工学科に着任いたしました三木信彦です。

京都大学大学院工学研究科電子通信工学専攻修士課程を終了後、1998年4月にNTT移動通信網株式会社（現在の株式会社NTTドコモ）に入社し、15年勤務いたしました。その後、香川大学工学部（現在の創造工学部）で12年勤務した後、立命館大学に参りました。

私はこれまで「携帯電話・スマートフォンに用いられている移動通信システム」について研究・開発してきました。特に基地局と端末の間の無線区間が専門です。この移動通信システムは1990年代後半から急速に普及し、今では欠かせない社会基盤にまで発展しました。私がNTTドコモに入社した1998年頃の伝送速度は28.8kbpsだったという若い人は驚き、私と同年代の人は懐かしく思い出すのではないのでしょうか。現在では動画もスマートフォンで見られる時代になっていますが、この進化を支えるため、無線区間に限らず、コアネットワークなど全てが高度化しています。前述の通り私の専門

は無線なので無線について少し話をします。

無線といっても無線区間のモデル化、アンテナ、信号処理など様々な専門家がいます。私は標準化に関わっていたこともあり、システムよりの検討を行っていました。その時、確立されたモデルを用いて評価するのですが、このモデルを実感を持って理解できたと感じたのはNTTドコモにおいて2003年頃に横須賀市内で行った4G実験装置を用いた実験を通してです。基地局と端末間の距離は1km程度の測定コースを定め、何度も測定を行いました。受信電力、パケット誤り率、スループット、伝搬遅延特性などをリアルタイムで測定し、見る事ができました。移動通信システムにおいて、端末から基地局が直接目視できる場合は限られており、建物などに反射した後に受信される場合がほとんどでした。反射することによって経路長が伸び、様々な経路を通った電波が受信されます。経路長が異なると受信する時間が若干であるが異なるため、受信機で遅延時間毎の受信電力を測定することができます。これを伝搬遅延特性と呼んでいます。言い換えるとこの特性を見ることで、どの程度反射した電波が受信されているかを知ることができます。これらの特性と端末を載せた測定車から見る風景を見比べることで目に見えない電波を理解するのに大きく役立ちました。特性と実際の建物などの配置と見比べることで、教科書・論文に書かれている無線

区間のモデルを実感を持って理解できました。

一般的には電波を利用するには電波免許が必要であるため、このような経験をするのは簡単ではありません。しかし、特定の条件を満たす場合、電波免許不要で電波を利用することができます。その一つが、モノのインターネット（IoT: Internet of Things）での活用が期待されている920MHz帯を用いるLoRaです。IoTでは伝送する情報量が少ないため、狭帯域の信号を用いて小電力でも長距離通信が可能です。受信電力を測定する機能があるので、これを用いることで、モデルを体感することができます。具体的には、固定した送信機から一定期間毎にパケットを送信することで、受信機では一定間隔毎に受信電力を測定することができます。受信機を屋内外の様々な場所に移動して測定することで、無線特性と周りの環境を見比べることでより多くのことを学べると感じ、香川大学では学生実験に用いておりました。立命館大学でも同様な実験を組み込み、体験を通して無線を理解できるようにしていきたいと考えております。

振り返ってみると、これまで移動通信システムの発展を企業、大学の立場から関わることができ、得難い体験をしてきたと感じています。これらの経験をもとに、立命館大学、移動通信システムの発展に微力ながら貢献していきたいと考えております。最後になりましたが、皆様のご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



理工学部電気電子工学科 准教授

藤井 茉美

2025年4月に電気電子工学科の准教授として着任いたしました。ワイドバンドギャップ半導体材料および半導体デバイス評価に関する研究を専門とし、最近では特にダイヤモンド半導体の結晶成長と欠陥評価に注力しています。兵庫県出身で、神戸市立工業高等専門学校から奈良先端科学技術大学院大学へ進学し博士課程まで修了いたしました。

神戸高専では高圧放電プラズマを用いたNOx排ガス処理装置の開発を研究テーマとしました。実験の楽しさを知ったのはこの時期です。その後、奈良先端大では酸化半導体薄膜トランジスタの信頼性解析を主要テーマとして取り組みました。2008年当時、モノになるのか懐疑的な見方もあった非晶質酸化半導体ですが、「自分にやらせてほしい」と教授に申し出て研究を始めました。作製プロセスの立ち上げから様々な物性・電気特性評価に至るまで多くの経験を積ませていただきました。特に修士1年次におけるプロセス立ち上げでは、多くの先輩方、

共同研究員、他大学の先生方に至るまでご指導をいただき、学ばせていただきました。若手をエンカレッジして育成しようとしてくださる先輩研究者の方々の姿勢を尊敬し、研究者への志を強くした体験でした。その成果として、数日かけて作製した数 μm の小さなデバイスが上手く動き、良い特性が出た時は言いようのない喜びを感じました。ありがちですが、世界中で今このデータを知っているのは自分だけだとワクワクしていました。

また、博士後期課程では学術振興会特別研究員として採用いただき、その支援の一環でオランダのデルフト工科大学へ短期留学させていただきました。“研究所”色が強い組織でしたので、分業体制で作業効率が高く、(一部の教授以外は)夕方には家族と過ごすために帰宅するというライフスタイルを実践されていました。週末に研究室に入る人はほとんどいません。おかげで、夕方から仲間と飲みに行ったり、土日にヨーロッパを旅行したり、研究以外でも多くの学びと経験を得ることが出来ました。このような多くの経験を通じて、研究への意欲を一層高めた状態で博士課程を修了することができました。

卒業後はPanasonic株式会社でOLED事業立ち上げに携わり、奈良先端大、近畿大学で教育と研究に従事し、現在に至ります。

企業在籍時、仕事の合間にあるダイヤモンド

デバイスの論文を読みました。それまで扱っていた酸化半導体は非晶質であるものが多く、非晶質由来の高密度な欠陥の分析と制御に苦労していました。一方でダイヤモンドの研究分野では、NVセンタなど特徴的な欠陥が積極的に活用され、注目される研究領域として発展しています。この論文からダイヤモンドの研究に興味を惹かれ、教員として大学に戻った後はダイヤモンドの研究に取り組みたいと考えていました。現在は酸化半導体薄膜トランジスタの解析で培った知識を生かし、ダイヤモンドデバイスの界面欠陥起源や移動度制御に影響する界面原子構造の解明に取り組んでいます。

以前、小学校生の娘が学校で「お母さんのお仕事」の話をしたようで、保護者の方から「宝石関係のお仕事をされているの？」と誤解されることがありました。今後は宝石としてだけでなく、ダイヤモンドの電子材料としての機能が広く知られるようになり、実用化に貢献できるよう研究を進めてまいりたいと考えております。

また、私自身が過去に多くの方々に助けられたように、学生にはできる限り多くの学びと経験を提供して将来の助けになれるよう努力したいと思います。そして、私自身も学生から学び成長したいと思います。皆様には今後ともご指導ご鞭撻賜りたく、何卒よろしくごお願い申し上げます。



電子情報工学科 助教

LI Qi

2025年4月より電子情報工学科に助教として着任しました、LI Qi (リ キ) です。私の研究テーマは、エッジデバイスへの実装を目的とした AI モデルの軽量化手法です。

私は 2021 年 4 月に修士課程の学生として立命館大学に入学し、博士前期課程および後期課程を本学で修了しました。ここは故郷以外で最も長く過ごした場所であり、とても深い愛着を感じています。助教として残り、大学に恩返しできることを大変光栄に思っています。

子どもの頃から、研究や理工分野に深い興味を持っていました。当時、両親に買ってもらった「電脳サーキット」で遊ぶのが大好きで、ガイダンスに沿って回路を作ることで電子回路の基本を学ぶだけでなく、自分なりの発想でオリジナルの回路を作ることも挑戦していました。うまく動かないことも多々ありましたが、試行錯誤を重ねる中で原理への理解が深まり、このような探究の過程をとっても楽しんでいました。

その後、両親が PC を購入しました。当時の

ソフトウェアは今ほど使いやすくなく、不便な点も多くありましたが、私は好奇心旺盛な子どもだったため、ゲームを楽しむために自分で調べて問題を解決しようとしていました。誤った情報やうまくいかない方法はよくありましたが、他人の解決方法を参考にしながら、少しずつ根本的な原因を理解できるようになりました。この経験を通して、自ら情報を収集し、技術の仕組みを理解し、問題の本質を探る力が養われました。

修士課程では、自分のアイデアを形にする中で、ソフトウェアやハードウェアの面で数多くの課題に直面しました。そのたびに、これまでに培ってきた問題解決力やプログラミングの知識を活かし、困難を乗り越えて最終的によい成果を実現できました。この取り組みは単なる興味のためではなく、実際の技術的課題の解決に貢献するものであったため、大きな達成感を得られました。修了時には、研究成果が評価され、電友会より研究部門最優秀賞をいただきました。この受賞は私にとって大きな励みとなり、博士課程への進学を決意する契機となりました。

私の研究は、AI およびコンピュータビジョンを中心としています。現在の AI は非常に大きな可能性を持ち、急速な進化を遂げています。AI は事前知識に基づいて学習することで、時に私たちの想像を超えるような答えを導き出します。

一方で、AI モデルの巨大化も急速に進んでいきます。修士課程入学当初は、1 枚の GPU で時間をかければ学習を完了できましたが、現在では複数の GPU を用いなければ、大規模言語モデルの推論すら難しい状況です。こうしたモデルの大規模化は、AI をエッジデバイスに実装するうえで大きな障壁となっています。しかし、一般ユーザーが最も多く接するのは、スマートフォンやロボットなどの軽量なデバイスです。

私は、このようなエッジデバイスで高性能な AI を実現するための研究に取り組んでいます。PULP、FPGA、Jetson など多様なアーキテクチャを対象に、限られた電力供給やサイズの制約下でハードウェア資源を最大限活用し、高効率な処理を行うため、複数のモデル圧縮手法やエッジコンピューティング手法を提案してきました。これらの技術により、複数のエッジプラットフォーム上での高性能 AI モデルの実装が可能になり、推論時間の短縮、メモリ使用量の削減、通信データの削減などの成果も得られました。

今後は、こうした経験を活かし、本学、電子システム系、そして立命電友会への恩返しができるかと考えています。微力ながら、教育・研究活動に貢献できるよう努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

外から見た立命館

国立大学法人 東京科学大学 総合研究院 未来産業技術研究所 助教

松田 汐利 博士 (工学)



1. 自己紹介

私は2018年4月に立命館大学電気電子工学科に入学し、2021年4月に1年飛び級にて同大学院博士課程前期課程に進学しました。その後、2023年4月に神戸大学大学院博士課程後期課程に進学し、2025年3月に1年早期修了にて博士(工学)を取得しました。同時に日本学術振興会特別研究員DC1としても従事しました。2025年4月からは東京科学大学(旧:東京工業大学)で助教を務めています。

2. 現在の研究・活動に関する報告

私の研究は、うつ病など神経疾患の解明を目的に、生体内の細胞に光を照射して活性化させ

る操作技術と、その活動を蛍光観察する技術の開発です。これらの技術の課題は、生体組織で光が散乱することです。立命館大学では渡邊歴先生のご指導のもと、細胞からの蛍光を復元する研究、神戸大学では的場修先生のご指導のもと、特定の細胞へ自在に光を照射する技術の開発に取り組みました。現在は東京科学大学にて、テラヘルツ波による細胞操作や照射デバイスの開発を進めています。また、教員として電気電子系の講義も担当しています。

3. 外から見た立命館

私は、大学時代を「学生としての学び手」としての立場から、「社会の一員として責任ある行動を求められる立場」へと移行する大切な期間だと捉えています。

東京科学大学では、学生は社会人としての意識を求められます。教員や研究員が多く、成果を重視する緊張感のある環境の中で、自然と責任感や基礎力が育まれる印象を受けました。神戸大学は、学生を学び手として支えながらも、社会人としての行動を促すバランスを感じました。システム情報学研究科では、大学で得た知識を活かして独自にアプリ開発を行う学生や、新しいプログラミング言語を独学で習得して研究に応用する学生の姿が印象的でした。立命館大学は、学び手として学生を支える体制が非常に充実しており、学修や研究のサポートが手厚いことが大きな魅力です。社会人としての姿勢は、教員との日常的な関わりを通じて育まれると感じます。私は、指導教員が「お医者さんは体調不良でも緊急手術は休まへんでー」と言い放ち、ぎっくり腰でも学生を指導する姿を見て、社会

人としての責任や技術を強く意識しました。ただ、指導教員曰く「松田さんの指導で寿命が3年縮まった」そうなので(笑)、今後は、教員が命を削らずとも、時間的にも精神的にも余裕を持って指導できる環境が整うことを願っています。

4. 後輩へのメッセージ

学生生活でぜひ意識してほしいのは、「社会人としての体力と技術」を養うことです。体力とは、「週5日大学に来て、1日8時間勉強や研究を続ける力」のことで、社会人や高校生では当たり前ですが、大学生になると意外と難しいです。技術は、「正課活動を本気で取り組むことで身につく力」です。私自身、先輩や先生方からの助言、興味が薄い講義も真剣に学んだ経験が、教員になって役立つ瞬間が何度もありました。一度本気で取り組んだことは、忘れてもすぐ思い出せ、社会で役立つ即戦力になります。

5. 教職員・先輩方へのメッセージ

温かく時には厳しくご支援いただき、感謝します。先生方や事務の方の支えもあり、在学中から多くの賞や助成金をいただき、現在も順調に研究を続けられています。特に指導教員のおじさんは、「朝は実験、昼は解析、夜は論文!」と研究から生活態度までズバズバ言う、今も変わらず口うるさい(笑)存在です。ここまで本気で言ってくれる人は、多分一生現れません。おかげで「若いのにしっかりしてる(おじさんの感性をもっている)ね」と褒められます。今後は、指導教員のような研究者を目指し、立命館の先生方と共同研究できるよう頑張ります。

大学での学びと研究活動について

立命館大学大学院 博士課程前期課程

大倉研究室 増井 翔伍

はじめに

立命館大学大学院 博士課程前期課程、視覚LSIシステム研究室（大倉研究室）に所属しています。2021年に理工学部電子情報工学科へ入学後、現在は大学院で研究に励んでいます。本稿では、これまでの大学での学びと研究活動について述べさせていただきます。

大学での学び

私が電子情報工学科を選んだのは、ハードウェアとソフトウェア両方の知識を幅広く学びたいと考えたからです。

大学ではひたすら学業に打ち込んだのですが、正直なところ、その大きな動機は経済的な事情でした。学費の負担を減らしたい一心で、西園寺奨学金の獲得を目標に掲げ、それをモチベーションに努力し続けました。そのために「分からないことを放置しない」と決め、授業での疑問点はすぐに教授や先輩方に質問しました。また、想像以上に大きな支えとなったのが友人たちの存在です。放課後は図書館で共に学び、時には一つの問題を巡って夜遅くまで議論を交わすなど、切磋琢磨できる環境があったからこそ高いモチベーションを維持できました。結果として、奨学金を4度受賞、うち2度は首席という身に余る評価をいただき、努力が報われた時

の達成感は今でも忘れられません。この経験を通して、主体的に学ぶ姿勢と仲間と協力して課題を乗り越える力を培うことができました。

研究について

研究では、カメラのセンサとして使われる半導体素子であるCMOSイメージセンサの研究に取り組んでいます。明暗差の激しい場面でも「白飛び」や「黒つぶれ」を起こすことなく、鮮明な画像を低コストで撮像できる新しい画素の作成が目的です。独自の画素レイアウトと駆動方法を考案し、低コストで撮像できる明るさの範囲を拡大することで課題解決を目指しています。このアプローチには新規性があり、現在はシミュレータで様々な画素パターンを検証中です。研究は思うように進まず、心が折れそうになることもありました。そんな時、一人で抱え込まず、主体的に指導教官の大倉先生や先輩方と高頻度でミーティングを実施しました。ミーティングで自分の考えを提示し、多角的な助言をいただく中で、一人では決して見えなかった問題点が次々と明らかになりました。粘り強く試行錯誤を重ねるうち、この議論から生まれた手法が特許取得に繋がる話も出ています。この協働的なアプローチにより、一人では辿り着けなかったであろう地点まで、着実に研究が前進していると実感しています。

おわりに

本稿の執筆という貴重な機会をくださった立命電友会の皆様に感謝いたします。また、日頃よりご指導くださる大倉先生、諸先生方、研究室の皆様、そして常に支えてくれる両親に、この場を借りて深く感謝申し上げます。

電子システム系 2024年度 学業成績および研究活動 表彰者一覧

2024年度、在学時に学業・研究活動を活発に行ってきた学生21名が表彰されました。おめでとうございます。(敬称略)

下記の通り、合計21名に決まりました。

学業成績 部門

[学部生]

最優秀賞 計2名

濱田 駆 (電気電子工学科)
増井 翔伍 (電子情報工学科)

研究活動 部門

[大学院生]

最優秀賞 計5名

倉友 遼太 松井 敦己 西田 隼平
森 海翔 服部 太政

優秀賞 計6名

石橋 龍人 西村 歩高 今西 蓮
服部航三郎 上田 滯 藤原 雄太

[学部生]

最優秀賞 計2名

木村 航介 高橋 遼大

優秀賞 計6名

東奥航志郎 藤田 佑樹 石川 聖幸
藤本 一輝 亀井 風歌 三浦 晏蒔

65 歳間近の集い

荒井 康之 (昭和 59 年卒)

昭和 59 年卒 松田研究室の同窓会を、2025 年 6 月 21 日と 22 日に開催しました。初めての同窓会は 5 年前に行い、その時は学生時代の名簿や入社した当時の会社に連絡を取り、居場所を突き止めることから始めましたが、今回は、前回グループ LINE を作成し、ほどほどに連絡を取り合っていたため、スムーズに開催することができました。この 5 年間で 60 歳を過ぎ、すでに退職してゴルフを楽しむ者、白髪が進んだ者、痩せた者、転倒して顔にあざがある者、娘を自分の会社に入社させ将来安泰の者など、状況は多少変わっていましたが、全員が元気であることが何よりでした。

集合場所は前回同様「立命館大学衣笠学舎」。昼食は、学生時代に何度も食べに行った「お好み焼き ジャンボ」で、お持ち帰りを購入し、屋外ベンチでランチをしました。当時はペロリと食べた「じゃんぼお好み焼き」でしたが、卒業して 41 年が経ち、食が細くなっていました。申し訳ないことに完食には至らず、これは反省点です。

その後、恒例の構内見学。この日は「キャンパス見学会」が開催されており、R マークのシャツを着た学生スタッフと多くの高校生が学内にいて、立命館の気持は健在のようで若者で賑やかでした。そこで、当時 松田研究室全員で撮影した場所で改めて撮影すると、我々同様に大学も大きく様変わりしており、衣笠グラウンドには 2 棟の校舎があり、背景は大きく変わっていました。

ビフォー



1983 年 4 月 撮影 (衣笠学舎 旧中川会館前)

その後は、金閣寺など近隣を散策し、夜の懇親会は学生時代にはオーラを感じていた「祇園 レストラン菊水」で開催しました。ここからは、我々の同級生で現在「立命館大学副総長の高山茂教授」にも参加いただき、学生数や学部数など飛躍的に躍進した立命館の現状や未来への取り組みについて説明を受けながら、和気あいあいと過ごし、その後、宿に移り大部屋で朝まで語り合いました。

2 日間の会話は、やはり学生時代の思い出が多かったですが、退職年齢を迎え、社会人として頑張ってきたことに話が進むと、海外で製品を売り歩いたこと、海外で工場を立ち上げたこと、海外の女性と恋に落ちたことなど、海外で一旗揚げようとしたメンバーが多いことに驚きました。多くの企業が海外進出するタイミング

アフター



2025 年 6 月 21 日 撮影 (同左)



2025 年 6 月 21 日 撮影 (祇園 レストラン菊水)

が、年齢的にちょうど中核的立場と重なったものと思います。

苦労話をすると、喜怒哀楽をともにした仲間、知識と行動力など社会で活躍できる知恵を授けてくれた立命館大学。そこが礎であったと、今になって悟ることに。

いつまでも良い仲間、次回は 13 人全員で再会しよう。ありがとう。

「2025年 辻村・前田・浦山研究室 合同同窓会」の開催について

辻村・前田・浦山研究室合同同窓会会長
小川 弘之

本年7月5日「からすま京都ホテル 双舞の間」にて標記合同同窓会を開催いたしました。昨年は故辻村先生の3回忌に当たり、辻村先生を偲ぶ会を兼ねての開催となりましたが、本年も前田先生を始め、辻村・前田研究室、浦山研究室の卒業生、およびこれらの研究室以外の電気工学科卒業生である高山茂副総長を始めとする苅屋研究室、山田研究室、白川研究室、藤枝研究室からの学友関係者を含め37名の参加にて開催いたしました。二次会も昭和のレトロな雰囲気醸し出す同ホテルの地下のBARに多くの方にご参加いただきました。

開会宣言の後、辻村先生その他の物故者への黙祷を捧げ、総会にて会計報告、大学の副総長である高山先生から「大学の現状と将来への方向性」についての情報を提供いただきました。2000年以前の卒業生の入学時からすると想像もできないくらいの立命館大学の規模、ならびに広大な研究分野を始めとする大学内外の活動の大変化には驚くばかりで、この原稿の作成中の10月18日に国立京都国際会館で開催された「立命館創始155年・学園創立125周年記念式典・記念イベント」の校友会のイベントに参加し、その展示や説明を見る・聞くにつ

け、現在の大学の発展には驚嘆と敬服とともに、自分は何一つ貢献していないのになぜか誇らしい気持ちになりました。

今回の同窓会では前田先生の講演に続き「現役・シニア世代に贈る有益情報」として、「これからの人生、損得勘定(年金、税金)」、「不動産の相続時における注意点」、「昭和オヤジに贈るコンプラの現状認識と対策」の内容で、これらに知見のあるOB会員に情報提供をしていただきました。「初めて聞くわー」という声も多く好評でした。また、気まぐれ企画として「ある意味凄い人」とのタイトルで、「330V以上に感電した、あるいは落雷にあったことがある」、「1日に薬を15錠以上服用している」、「ペーパードライバーの期間が45年以上あり、車両管理者をしたことがある」、「1年以内に手術を3回受けたことがある」、「5人以上の孫のフルネームが正確に言える」、「誤認逮捕されたことがある」、…他、参加者での該当者には敬意を表し金一封を贈呈いたしました。企画はともかくとして金一封は喜んでいただきました。

来年も7月の第1週に開催予定です。今回の参加者、久しぶりの参加者も遠慮なくご参加ください。お待ちしております！！

追伸：本合同同窓会は卒業後の大学との繋がりを維持するために他研究室卒の方であっても電気工学科や光・電子工学科の卒業生であればお申し出に応じて参加していただけます。(電友会事務局にお問い合わせ願います)



「悟空会 (S59 年卒) 同窓会」の開催について

幹事会

藤田 真、山本拓央、山下和人 (昭和 59 年卒)

2025 年 10 月 25 日、京都・堀川五条の「京都市東急ホテル」にて、A・B・C クラス合同、計 28 名の参加を得て S59 年卒同窓会「悟空会」を開催いたしました。前回の開催は 2019 年 6 月であり、コロナ禍を挟んで実に 6 年ぶりの再会となりました。久しぶりに顔を合わせた瞬間から学生時代に戻ったかのような空気が広がり、互いの再会と健康を喜ぶ声が会場にあふれました。

今回の開催に向けては、まず同窓の高山氏 (立命館大学副総長・副学長) のご多忙な日程を確保するところから準備が始まりました。6 月頃より幹事会にて連絡調整を重ね、多くの皆様にお声がけしながら開催にこぎつけました。会場では、幹事の山下氏とご友人である総支配人のご厚意によりシャンパンをご提供いただき、華やかな雰囲気の中で、株式会社きんでん常務執行役員の方のご発声で乾杯し、和やかに会がスタートしました。

会場には懐かしい顔がそろい、年月を重ねた姿に「誰だっけ?」と笑い合う場面もありました。参加者は 63~66 歳の節目を迎えていますが、現役で活躍される方、独立して新分野に挑む方、企業の役員として重責を担う方、あるいは

退職後の生活を楽しむ方など、それぞれの歩みを語り合い、同窓会ならではの濃い交流が続きました。

会の中盤では参加者全員による近況報告が行われ、最終バッターの立命館大学副総長の高山氏まで時間が足りないほど盛り上がりました。一本締めは株式会社 SCREEN ホールディングス常務執行役員の方の吉岡氏に賜りましたが、追加で渡辺昌昭氏による力強い校歌斉唱が披露され、学生時代の記憶が色濃くよみがえる時間となりました。最後は全員で記念写真撮影を行い、和やかな雰囲気の中で宴を閉じました。

一次会終了後、会場の都合もあり、参加者は数グループに分かれて京都駅周辺にて思い思いに二次会を楽しまれました。久しぶりの再会を惜しむように話が尽きず、各グループとも学生時代の思い出や近況がさらに深く語られ、改めて同期の絆を感じる時間となったことでしょう。

次回は、懐かしの衣笠キャンパスの見学を兼ねた同窓会の開催を検討しております。今回、A クラスの参加がやや少なかったため、次回はぜひ多くの方にご参加いただければ幸いです。

最後に、本会にご参加いただいた皆様、そして開催にあたり多大なるご協力を賜りました立命電友会事務局の皆様、心より感謝申し上げます。



第2回総会報告

2025年11月1日 於：立命館東京キャンパス

浜崎 博明 (1976年卒)

I. はじめに

関東立電会から受け継いだ立命電友会関東支部は令和7年度に第2回(関東立電会発足以降通算21回)の総会を開催しました。

前年度より採用した①会議方式(対面とWeb参加のハイブリッド開催)、②出欠確認(ハガキに加えたWebでエントリー)を継続し、忙しい現役世代の若い方々にも気軽に参加出来るよう努め、対面14名・Web12名の計26名の参加を頂きました。

今年のテーマはSDGs、世界に先駆けとなる航空機の電動化と究極の省電力技術によるIoT機器の研究について講演を頂きました。

II. 講演会

ご講演いただいたOBの大依仁氏('89年卒)は大学卒業後に自動車メーカーに入社され宇宙航空事業に従事、その後IHIで技術開発の責任者としてご活躍されると共に、秋田大学の客員教授として航空宇宙における電動化のキーパーツとなる超電導モーターエンジンを構成する素材やモーターユニットの研究・開発に邁進されています。



今回は「将来の航空機と超電導モーターエンジン実現への期待」と題し、航空宇宙における電動化の歴史から電動航空機の現状、要素開発を通じて超電導モーターエンジンの実現までを詳しくご講演頂きました。

航空宇宙における電動化の歴史は2001年に世界で初めて宇宙ロケットにIGBTとリチウム熱電池の搭載から始まり、2009年に航空機電動化の研究が本格化した。

現在の電動航空機は電動垂直離着陸機と水素電動航空機の試験飛行がなされ、方式はeVTOL(ピュアエレクトリック)と呼ばれ水素燃料電池orバッテリーで推進モーターを駆動させるものと、eSTOL(シリーズハイブリッド)ガスタービンで発電し推進モーターを駆動させる2通りの方式がある。

これらの方式は①ターボプロップ旅客機(パラレルハイブリッドガスタービン)、②電動プロップ旅客機(ピュアエレクトリック)、③ターボファン旅客機(パーシャルターボ)、④ターボファン旅客機(マイルドハイブリッド)に採用されている。

IATA(国際航空運送協会)では2035年以降に本格化し、2050年にNET ZEROを見通しており、各国で電導航空機のモーターエンジン実現のため要素開発が進んでいる。

日本では秋田大学が各大学や企業とプロジェクトを組み、超電導モーターコアや電動アクチュエーター・アルミコイルなどを研究開発、超電導モーターエンジン実現への取組みは、生成AIが世界を一変させたに等しい技術改革だと感じました。

現役教員のご講演では田中亜実准教授('14年博士修了)により「環境発電を用いた新しいセンサシステムの提案」と題し、身の回りに存在する電波・樹液・尿などの自然エネルギーを抽出、バッテリーレスシステムの発電源として活用する電源変換回路及び極低電力回路の構成方法などの研究内容を紹介して頂いた。

実用例として、植物の育成管理や尿漏れセンサー内蔵オムツ・PCマウスなど多岐に渡り、ビジネスチャンスが更に拡大すると実感しました。



III. 総会

- ①審議決議事項では関東支部役員任期途中での改選について、全員の拍手で決議されました。
〈幹事〉 遠藤寛明氏 → 小林孝之氏
〈事由〉 遠藤氏の海外赴任による本人の意向
- ②来年度の支部総会は本部の4年毎の総会と重なるため合同開催を提案し、全員の拍手で了承されました。

IV. まとめ

総会終了後の懇親会では10名の参加による世代を超えた会話で盛り上がりました。

関東支部の総会は電友会の一行事として、社会で活躍中のOBと現役教員の講演を中心に、若い人にも気軽に参加頂ける会を目指し、企画してまいります。

関東地域に限らず電友会会員の皆様からのアイデアを募って参ります。



2025年荒木研究室夏ゼミ旅行 ～大阪・関西万博～

理工学部 電気電子工学科 教授/教学部 部長/教育開発推進機構 機構長
荒木 努

2025年7月10日(木)、今年の荒木研究室ゼミ旅行として、大阪・関西万博に行ってきましたので、その様子を報告させていただきます。まず、なぜゼミ旅行で万博に行ったかと申しますと、例年、車数台に乗り合わせて、近場(滋賀、福井、三重など)のレクリエーション施設に1泊2日で行って、運動したり、観光したりという内容が恒例でしたが、近年、車を出せる学生がいらない(レンタカーが必要で参加費高騰)、なんなら運転できる学生も少ないという課題に直面し、だったら今年は公共交通機関で、万博へ行こうと思い立ちました。

私の研究室では、半導体材料・物性・デバイスの研究をしていますので、万博には半導体を用いた最先端の技術が集まっていますから、なによりの勉強の場です。そして、半導体に限らず、大屋根リングや各パビリオン、国際色などこの空間、空気をぜったい学生達も見ておいた方がいいと、実際に何度も行って強く思いました。が、ゼミで「万博、行った方がいいよ」と言ってもなかなか自分では行かないだろうから、

ゼミ旅行として、半ば強制的にですが、連れて行くことにしたのでした。

4月に前期割引券を学生24名分まとめ買いしまして、2ヶ月前パビリオン予約でTECH WORLDを全員分予約できました。TECH WORLDは台湾企業が出展しているパビリオンで、内容は半導体の最新技術です。普通の人なら、わーすごーい、きれい～で終わるかもしれませんが、半導体を勉強している学生達にはもっと感動してもらえたらと一択で選びました(学生達はガンダムとか行きたかったかもしれませんが)。なお、TECH WORLDは、オリジナルグッズがおみやげにももらえるということで会期後半には3、4時間待ちは当たり前の大人気パビリオンとなりましたので、いい選択でした。

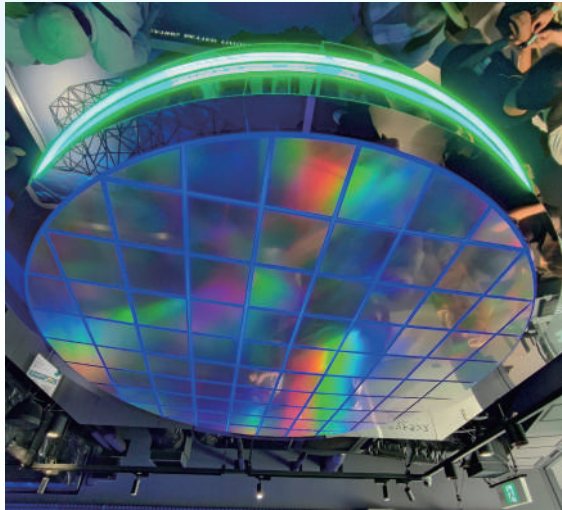
7月10日(木) TECH WORLDの予約12時にパビリオン前現地集合にしました。それまでは自由行動、楽しみたい人は朝早くから行って、好きに万博を回ってお勉強してくださいと。私はお手本を見せるべく、JR南草津駅始発4:59発に乗って、6:30夢洲到着で東ゲートに並びました。すでに7月の朝は暑くて2時間以上並ぶのは過酷でしたが、がんばって並んだおかげで、先頭から10番目ぐらいでゲート入場できました。ゼミ旅行報告ですので、私の個人行動は省略させていただきますが、この日の朝だけでアメリカ館、フランス館、中国館、ブラ



ジル館、シンガポール館を制覇できました。

パビリオン巡りに必死になってしまい、ゼミ旅行として来ていたのを忘れてしまいそうでしたが、12時にTECH WORLD館に集合しました。教員3名、M2 10名(中国留学生3名)、M1 5名、B4 8名(マレーシア留学生1名)の総勢26名でやってきました。学年ごとでそろって、なかよくパビリオン行ったり、食事したり、一緒に行動していたようですので、ゼミ旅行としての目的は達成できました。大屋根リング下で集合写真も撮りました。

いよいよTECH WORLD館入場です。半導体、全面押しです。なんとエントランスの天井に、半導体ウェハをダイシングした形の模型があり、みんなでテンション上がりました。こんなところで喜ぶのは、半導体の研究室ならではです。最初のエリアは「ライフ劇場」で、560



台のタブレット1台1台が中央の巨木をイメージしたスクリーンの映像にあわせて、ロボットアームで生きているかのように連動して動いていました。続いて、360度埋め尽くされたスクリーンに高画質4Kレーザープロジェクターから映像が映し出される「ネイチャー劇場」があり、台湾の自然や宇宙を没入感たっぷりに楽しむことができました。その先には、「ランの道：蝶とランの花によるバーチャルとリアル共演」エリアがあり、ナノスプレーという技術でカラフルに着色された胡蝶ランの上を、透明なマイクロLEDディスプレイに映し出されたバーチャル蝶々が飛び交っていました。研究室では、マイクロLEDディスプレイ応用に向けた窒化物半導体結晶成長の技術開発を行っていますので、実際のマイクロLEDディスプレイを目にしてわくわくしました。頭ぶつかぐらい近づいて、透

明ガラスに組み込まれているLEDチップを観察しました。このあとの「FUTURE (未来)」エリアでは、12インチ(300mm)のSi半導体ウェハも展示されていました。

普段、研究室で行っている地道な半導体の結晶成長や物性評価がこうした最先端技術につながっていること、そして大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」でしたが、その一翼を半導体が担っていること、あらためて実感してもらえたかなと思います。

このあと、自由解散でそれぞれに万博を満喫しました。マレーシアからの留学生Falizaさんは、開幕からマレーシア館でガイドとしてもお手伝いしていたそうです。彼女のオススメで、マレーシア館レストランで食べたロティチャナイはとてもおいしかったです(後日、リピートしました)。

思い出に残る2025年のゼミ旅行となりました。(私は結局14回も万博行きました!)



2024年度 電子システム系修了生・卒業生・進学・就職状況

2024年度における電子システム系の大学院前期課程・学部に進路状況を表1に示します。前年度の大学院前期課程および学部卒業生は、それぞれ126名、261名でした。大学院前期課程から6名が後期課程に進学し、民間企業への就職が115名という結果になりました。学部卒業生のうち132名が大学院前期課程に進学(進学率=約51%)、民間企業への就職が119名となっています。就職希望者については、大学院生の約98%、学部生についても約94%が就職先を決定しており、非常に高い就職率を達成しました。

次に2024年度における電子システム系の大学院前期課程・学部の就職一覧を表2に示します。同表が示すように、就職先(民間)の業種は、電子電気機器メーカーが約28%と最も多く、ついで情報処理ソフトウェアが約19%、自動車・輸送機器が約10%、機械・プラントエンジニアリングが約8%、その他として、エネルギー、精密機器・医療用機器、通信関連、素材・化学など多岐にわたります。職種としては、開発・設計職、技術職、SE・IT職での採用が大半であり、特に高い専門性が求められる大学院生については、研究・開発職への就職率が高くなっていく傾向にあります。

さて、ここ数年、企業側の採用戦略の変化や就職市場の激化を受けて、就職活動の早期化が進んでいます。少子高齢化に伴い、とりわけ優秀な理系人材を早期に確保したいという企業側の状況が大きな要因として挙げられます。企業によっては、夏季インターンシップの募集を4月頃から開始し、秋以降より、他社に先んじて内々定を出すケースも増えています。こうした企業は、インターンシップは単なる就業体験の場ではなく、より優秀な人材を確保するための採用活動の機会として動いています。

一方、世界情勢の先行きは不透明な状況にあります。世界全体の債務残高は、年々増加しており、2025年3月末時点において、324兆ドル余りに達しています(国際金融協会報告)。また、米国の連邦政府債務に着目すると、既に38兆ドルを突破し、現在も膨張を続けている状況です。米国の家計部門の債務問題に加えて、個人の消費経済も低迷しています。こうした状況

の中、いずれ債務問題や膨張した株式市場が金融危機の引き金となる可能性を懸念する声も出ています。これは米国だけの問題ではなく、欧州諸国や中国においても、同様の問題を抱えています。金融市場の混乱は、消費経済に深刻な影響を及ぼすため、景気後退に繋がるシナリオも想定しておく必要があると考えられます。

最後となりますが、本学のキャリアセンタでは、進路・就職ガイダンス、企業インターン関連企画などの時期に応じた説明会を開催しています。電子システム系では、卒業生によるキャリア講演会、電機系・電子系の業界団体による業界説明会などの学生のキャリア形成支援企画を実施しています。年々変化する就職情勢において、今後とも在学生への支援が必要と考えおり、先輩諸氏に置かれましても、より一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

2025年度就職委員・馬杉正男

表1 進学・就職者数一覧

2025年4月21日現在

		卒修	進学	就職民間	就職(公務員)	その他	活動中未報告
大学院	電気電子	70	1	69			
	電子情報	56	5	46	1	2	2
	院 計	126	6	115	1	2	2
学 部	電気電子	140	71	64	1	2	2
	電子情報	121	61	55		5	
	学部 計	261	132	119	1	7	2
総 計		387	138	234	2	9	4

表 2 就職先一覧 (大学院・修了生の就職先も含む) (順不動、敬称略)

業種中分類・企業名 (正式)	
電子・電機	34社 65名
SCREEN ホールディングス (旧: 大日本スクリーン製造)、オムロンソーシアルソリューションズ株式会社、キオクシア株式会社、ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社、ソニー株式会社、ニチコン株式会社、パーソル AVC テクノロジー株式会社、パナソニックエナジー株式会社、ルネサスエレクトロニクス株式会社、ローム株式会社、株式会社 SCREEN セミコンダクターソリューションズ、株式会社デンソーテン、株式会社村田製作所、株式会社日立製作所、京セラ株式会社、三菱電機株式会社、NEC プラットフォームズ株式会社、TOA 株式会社、イビデン株式会社、セイコーエプソン株式会社、ヌヴォンテクノロジー・ジャパン株式会社、パナソニック株式会社、ブラザー工業株式会社、マイクロメモリアージャパン株式会社、株式会社 SCREEN PE ソリューションズ、株式会社 SIRC、株式会社エネゲート、三菱電機ディフェンス&スペーステクノロジー株式会社、東芝デバイス&ストレージ株式会社、日清紡マイクロデバイス株式会社、浜松ホトニクス株式会社、不二電機工業株式会社、富士フイルムビジネスソリューション株式会社、富士電機株式会社	
情報処理・ソフトウェア	31社 45名
エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社、パナソニックコネクト株式会社、三菱電機ソフトウェア株式会社、日本電気株式会社 (NEC)、BIPROGY 株式会社、NEC ソリューションイノベータ株式会社、NEC ネットエスアイ株式会社、Sky 株式会社、インフォコム株式会社、トランスコスモス株式会社、パーソルエクセル HR パートナーズ株式会社、パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社、株式会社 DSB 情報システム、株式会社 NTT データ MHI システムズ、株式会社 NTT データグループ・株式会社 NTT データ・株式会社 NTT DATA, Inc、株式会社 ODK ソリューションズ、株式会社 SHIFT、株式会社 TKC、株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ウェブ、株式会社オージス総研、株式会社オービーシステム、株式会社コア、株式会社システムサポート、株式会社シンカーミクスル、株式会社日本ソフトウェア、東京コンピュータサービス株式会社、東芝情報システム株式会社、日本プロセス株式会社、富士ソフト株式会社、富士通株式会社	
機械・プラントエンジニアリング	9社 18名
ダイキン工業株式会社、株式会社クボタ、株式会社メイテック、村田機械株式会社、オーエスジー株式会社、パナソニックプロダクションエンジニアリング株式会社、ホーコス株式会社、株式会社アマダ、三菱重工業株式会社	
自動車・輸送用機器	14社 23名
スズキ株式会社、トヨタ自動車株式会社、株式会社 SUBARU、川崎重工業株式会社、MHI エアロテクノロジー株式会社、UD トラック株式会社、ダイキョーニシカワ株式会社、パナソニックオートモティブシステムズ株式会社、株式会社アイシン、株式会社デンソー、株式会社豊田自動織機、住友電装株式会社、日立 Astemo 株式会社、本田技研工業株式会社	
エネルギー	7社 12名
関西電力株式会社、中部電力パワーグリッド株式会社、九州電力株式会社、中国電力株式会社、中部電力株式会社、東京電力ホールディングス株式会社、北海道電力株式会社/北海道電力ネットワーク株式会社	
精密機器・医療用機器	5社 8名
株式会社島津製作所、東京エレクトロン株式会社、コニカミノルタ株式会社、株式会社イシダ、松定プレジジョン株式会社	
通信関連	5社 7名
ソフトバンク株式会社、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、株式会社インターネットイニシアティブ、東日本電信電話株式会社	
情報・インターネットサービス	4社 7名
株式会社サイバーエージェント、楽天グループ株式会社、株式会社ルーデル、三菱電機デジタルイノベーション株式会社	
素材・化学 ゴム・ガラス・セメントセラミックス	8社 9名
日東電工株式会社、Patentix 株式会社、旭化成、株式会社カネカ、信越化学工業株式会社、東洋紡株式会社、日本ガイシ株式会社、AGC 株式会社	
鉄鋼・非鉄・金属製品	3社 3名
住友電気工業株式会社、株式会社メタルアート、日本軽金属株式会社	
運輸	4社 4名
東海旅客鉄道株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、西日本旅客鉄道株式会社	
建設・住宅・不動産	3社 3名
株式会社オープンハウスグループ、新日本空調株式会社、矢作建設工業株式会社	
その他	24社 30名
ヤマハ株式会社、株式会社 BANDAI SPIRITS、株式会社ネクスティエレクトロニクス、株式会社東陽テクニカ、株式会社日立ハイテック、日本サムスン株式会社、萩原電気ホールディングス株式会社、シンプルクス・ホールディングス株式会社、株式会社大和総研、株式会社野村総合研究所 (NRI)、パーソルテンプスタッフ株式会社、株式会社 NECT、パーソルクロステクノロジー株式会社、株式会社アルプス技研、株式会社エクシード、株式会社オーイーエム、外国企業 (中華人民共和国)、TOPPAN 株式会社、株式会社三菱 UFJ 銀行、芙蓉総合リース、株式会社ニトリ、株式会社プレナス (ほっともっと/やよい軒)、心根、奈良テレビ放送株式会社	
公務員	2名
京都府警察本部、大阪府	

2024年度収支決算報告概要

2024年度の立命電友会の会計運営は、一部項目において予算との差異が見られたものの、全体としてはおおむね計画どおりに執行されました。その結果、2024年度末における総資産は前年度比で76万7,512円の増加となり、財務状態は安定的に推移しています。

■ 一般会計 (A)

収入面では、終年会費収入が285万円となり、前年度実績(248万円)から37万円増加しました。これは主として該当年度の卒業生数の変動によるものであり、納入率自体はコロナ禍以降ほぼ横ばい(2022年度88%、2023年度86%、2024年度87%)で推移しています。また、雑収入は26万560円と比較的大きな金額となりましたが、これは卒業修了祝賀会関連の支払業務を電友会が一括して担ったことにより、教員親和会負担分、郵送料負担分、寄付金、祝金等をまとめて処理したことによる一時的な増加です。

なお、WEB作業に関わる人件費の一部については、ホームページ運営会計から一般会計へ繰り入れを行った上で支出しています。

支出面では、会報に関する印刷・発送・通信費が約13万円と抑制されました。支部関連では、関東支部設立に伴う備品作成や初回総会開催に係る支出がありました。

卒業修了記念祝賀会および入会式関連費用は、決算額としては大きく見えますが、そのうち15万円は教員親和会負担分であり、実質的な電友

会負担は約18万円程度となっています。

会議会合費は、会場費を抑える工夫により9,890円にとどまりました。役員交通費については、関東支部関連行事等への出席により8万7,200円を執行しています。

また、WEBを含む総人件費は145万8,659円となり、最低賃金の引き上げ等を背景に、当初見込みを上回る結果となりました。

このほか、ホームページ運営会計の赤字補填として3万9,050円を一般会計から支出しています。

■ その他の会計区分

長期計画会計(B)については、当年度中の新規預け入れや解約はありませんでした。

ホームページ運営会計(C)は、バナー広告収入により運営されましたが、サーバ利用料等により赤字となり、一般会計からの補填を行っています。

定時総会運営積立金(D)については、一般会計から50万円を繰り入れ、年度末残高は約200万円となりました。

■ まとめ

以上のとおり、2024年度は総資産が増加し、一般会計においても137万5,622円を翌年度へ繰り越すことができおり、立命電友会の定常的な活動に支障はない健全な財務状況を維持しています。

(会計 1997年卒 久保幸弘)

学系だより

【退職】

檜作 彰良 講師 令和7年3月31日、退職

清水 悠生 助教 令和7年3月31日、退職

【新任】

三木 信彦 令和7年4月1日、
電子情報工学科 教授に着任

藤井 茉美 令和7年4月1日、
電気電子工学科 准教授に着任

Li Qi 令和7年4月1日、
電子情報工学科 助教に着任

(敬称略)

訃報

昭24卒	岩田 柁次郎	令和4年2月
昭35卒	中牟田 雅	令和7年6月28日
昭36卒	堤 誠	令和6年4月27日
昭36卒	山本 勝敏	令和6年11月14日
昭41卒	岡崎 光志	令和7年6月30日
昭42卒	大曾根 則晏	令和6年10月14日
昭42卒	河出 正昭	令和6年8月1日
昭42卒	園田 義弘	令和6年12月3日
昭44卒	島田 和寿	—
昭44卒	高野 義孝	令和6年8月8日
平3卒	藤原 誠司	令和6年4月13日
大学院	熊谷 秀夫	令和6年6月26日

(敬称略)

ご冥福をお祈り申し上げます

表紙写真

立命館大学、びわこ・くさつキャンパス (BKC) 内に新設された、「グラスルーツイノベーションセンター」(通称 GIC (ジーアイシー))
および「立命館先端クロスバースイノベーションcommons」(通称 CVIC (シービック))

事務局だより

立命電友会会報 63 号の発行にあたり、ご寄稿・ご投稿いただきました皆様
に対し心よりお礼を申し上げます。

さて、この度、会報のリニューアルを行い充実した内容にするため、年 1 回
の発行とさせていただくことになりました。

今後も会報内容の充実に一層の努力を重ねて参りたいと考えております。ど
うぞ、会員の皆様の積極的なご寄稿・ご投稿を賜ります様よろしくお願ひ申し
上げます。

住所及びアドレスの変更がございましたら事務局までご連絡いただきますよ
う、よろしくお願ひ申し上げます。ホームページからも変更受付しております
のでご活用ください。
(岸・鍋谷)

立命電友会連絡先

〒 525-8577

滋賀県草津市野路東 1-1-1

立命館大学工学部電子システム系内

立命電友会事務局 川畑 良尚

岸 千津代 (月・木)

鍋谷 十重子 (月・木)

電 話 : 077 (561) 2554 FAX : 077 (561) 2663

e-mail : <http://ritsumeidenyukai.com/>

(会報の題字は久保之俊氏)